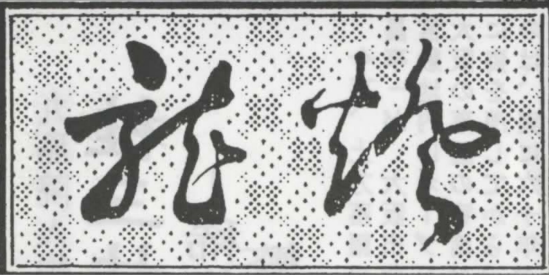


第 77 号



発行所

大阪市史跡 龍溪禪師墓所 霊亀山 九島院

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号

TEL 06 (6583) 2725 FAX 06 (6583) 0908

発行者

第廿五代住職 奥田 啓知 (智證)

当院は、阪神なんば線で、なんばから7分です。

『アイス・バケツ・チャレンジ』

善意の押し売りはだめよ ダメダメ

米国を中心にALS（筋萎縮性側索硬化症）の啓発活動として、「ALSアイス・バケツ・チャレンジ」というチャリティ活動がインターネットでブームとなり社会現象になっています。

ネットの交流サイトで指名された人が、活動に賛同する事を表明し、バケツに入った氷水を頭からかぶり、次にこのチャレンジを受けてもらいたい人を2〜3名指名する。そしてこの様子を撮影した動画をフェイスブックやツイッターなどソーシャルメディアで公開して完了。指名された人物は、①氷水をかぶる ②百ドルをALS協会に寄付する ③その両方を行うのいずれかを選び、次の挑戦者を指名する。

この運動は全米で大きな反響を呼び、マイクロソフトのビル・ゲイツ元会長やブッシュ前大統領も挑戦し、開始以来三週間で一三三〇万ドルの寄付金を集めました。日本からもIPS細胞でノーベル賞を受賞した山中伸弥教授やソフトバンクの孫正義社長ら各界の著

名人が挑戦し広がりを見せています。慈善活動は、キリスト教の教義から生まれたものですが、富める者はその財を貧しい者と分かち合う義務があり、貧しい者は富める者に施しを要求する権利があると旧約聖書に記されています。

仏教にも同様の「布施」という教えがあります。施すのは布に限らず、施す気持ちだけでもいいのです。ただし「俺がお前に恵んでやっっているんだぞ」という気持ちがあつてはならず、受ける者も施しを受けて義理を感じたり卑屈になつてはなりません。

また、施す物も清浄でなければならず、自分の不要な物を施しても布施になりません。そして、いやいやするのではなく、喜んですること（喜捨）が大事なのです。

アイス・バケツ・チャレンジは氷水を頭からかぶることや寄付をすることは強制ではなく、日本ALS協会も公式サイトや報道を通じて「無理はしないように」と要請していますが、指名された者がパフォーマン



©Nagako

「自分はいいことをした、自分はいい人間である」と満足感を持つと、人間は知らず知らずのうちに傲慢不遜な気持ちになり、いっこうに善いことをしない他人を非難し始める、あるいは自分は善い人間だと思いついでいるので、意識しないで多くの他人の心を傷つけていることに気づかないのです。

そんなパフォーマンズなしに、自ら進んで喜捨したいものですね！

黄檗宗寺院巡り① (北大阪編)

慈雲山 瑞龍寺 (通称 つげん寺)

一切経開板・難民救済の寺

鉄眼寺偶成

(住職作)

稀代名僧鉄眼光
飢民救済意軒昂
大功刻版未曾有
遺徳宝蔵何可忘

(意解)

稀代の名僧鉄眼道光
飢民救済し、刻版の意気
込みを失わず
一切経刻版の大功績は未
曾有のことである
宝蔵国師のご遺徳をどうし
て忘れることが出来ようか

浪速区元町に在り、黄檗宗萬福寺の特待地(触れ頭寺)である。

創建年月は不明。古くからなば村にあった薬師堂を喜多・蓬西等の村人が修繕を重ねて維持していた。寛文十年(一六七〇)鉄眼禅師(四十一歳)に中興開山とな

るように懇願し、延宝六年(一六七八)六月、慈雲山瑞龍寺と改号し、黄檗山の末寺になった。

翌年より七堂伽藍の落成が相次ぎ、浪速名所図絵には、「造立すべて唐山の如くにして宇治の黄檗山に彷彿たり」と記されている。当時の寺領は、現在の高島屋百貨店ちかくまでであったという。

昭和二十年三月十三日の大阪大空襲で諸堂は灰塵に帰し都市計画その他で境内地も随分狭まったが、鉄筋三階建の瑠璃光殿(本堂)が威容を誇り、沖繩首里城門に似した朱塗りの山門が、国道25号線に面している。

鉄眼は、隠元禅師に心服し禅師より明版一切経を授けられ、これを六万枚の版木とするため、全国津々浦々を托鉢行脚して、大名公卿から遊女にまで募財の旅に明け暮れた。折からの堀江西一帯の大洪水に集めた募財を投げ出し、難民救済に使った。

二度目の募財ができたが、今度は摂河泉平野の大飢饉で募財だけでは足らず、借金までして難民救済にあたった。

三回目の托鉢でようやく募財が

集まり大願成就したのもつかのま、天和二年(一六八二)五十三歳で示寂された。

弟子たちは印刷した二千部の一切経を宗旨を問わず日本各地の寺院に納めた。現在も一切経の版木四万八、二七五枚(重要文化財)は大本山萬福寺塔頭宝蔵院の収蔵庫に納められ、印刷されている。

昭和四年には、その功績により、昭和天皇より『宝蔵国師』の勅諭(おくりな)された。まさに、遺偈(遺言)

『七転八倒五十三年、妄りに般若を談じ罪犯弥天、

華蔵海を優遊して水中の天を踏破す』

の鉄眼禅師の一生であった。



慈雲山 瑞龍寺 本堂瑠璃光殿

だるまさん、集めてます。ご不要なだるまさん(置物など)お寺へ譲ってください。



檀信徒の皆さまへ

第二十回 修養会報告



開催日 昨年十一月二十九日(土)
 天気 雨のち曇り
 参加者 四十一名

四天王寺東門そばの黄檗宗寺院 清寿院(通称 なんきん寺)を拝塔し、アベノハルカス展望台を見学、ちんちん電車貸切の旅でした。新旧の大阪をたつぷりと満喫しました。今回も昨年同様に短時間のツアーでした。今年の修養会は未定ですが、今回のように檀信徒の皆様と楽しいひと時を過ごしたいと考えられていますので、多くのご参加をお待ちしています。(副住職)

訃 報

黄檗宗第61代管長 岡田亘令猯下が平成26年12月26日 73歳にて寂を示されました。7年の任期を残り3ヶ月残しての訃報に宗内僧侶、関係者驚きの一言に尽きます。



平成23年6月4日 12教区合同団体参拝時に萬福寺大雄宝殿にて法話される岡田管長猯下

九条から阪神三宮駅・近鉄奈良駅まで一直線!

行事報告

12/31 坐禅と除夜の鐘...参加者六十名
 地域の恒例行事となり、年々参加者が増えて賑やかに新年を迎えることができました。

行事予定

2/11 写経と精進料理の夕べ
 主催...大阪市仏教青年会
 四天王寺客殿を利用しての写経会です。参加費三千元。

2/28 はじめての坐禅
 昨年に続き4回目の開催です。

3/23 : 山門会 (春のお彼岸法要)
 (別紙参照)

3/28 : 写経会 15時~参加費 千円
 (別紙参照)

4/8 花まつり甘茶接待(西区仏教会九条駅前での甘茶の接待です。

5/16 : お寺 de チャリティーバザー
 13時~
 (別紙参照)

5/16 : お寺 de ヨガ
 14時~
 (別紙参照)

慈光堂(位牌堂)改築

本年1/13より 龍燈会館2階の慈光堂(位牌堂)を拓げる改築工事に着手しています。

工事中はご不便をおかけしますが、ご寛容くださいますようお願いいたします。なお、工事は2/2までに終了する予定です。 住職謹白

自宅に眠ってる不要なモノを当院までお預け下さい

お寺 de ヨガと同日に、チャリティーバザーを行います。そこで、ご協力をお願いします。

平成27年 年忌早見表

年 忌 早 見 表			
年忌	寂年	年忌	寂年
1周忌	平成26年	17回忌	平成11年
3回忌	平成25年	25回忌	平成3年
7回忌	平成21年	33回忌	昭和58年
13回忌	平成15年	50回忌	昭和41年

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

● 蛇石と宝くじ ●

某檀家さんの玄関ガレージの片隅に御社おやしろがあります。お地藏さんでもお祀りまつりされているのかと常々思っていました。お聞きしたところ、蛇石をお祀りしているとのことでした。

戦前から隣家との境界にあった、高さ40センチぐらいの石です。邪魔になるので、婆さんが足で蹴ったところ具合が悪くなり、拝み屋さんにみてもらうと、白蛇が入っているとのこと、小さな祠（ほこら）を建てて祀られています。

白蛇は白化現象を起こした蛇のことで、その希少性から日本各地で縁起のいい動物として信仰の対象となっています。脱皮した蛇の皮を財布に入れておくと、お金に困らないというように、蛇は金銭・財宝・その他の財物の象徴です。阿蘇・岩国・信州上田など各地に『白蛇神社』があり、ご利益を求める参詣者の信仰を集めています。

達磨さんも福だるま、開運だるまとして信仰をあつめています。昨春建築した当院のだるま堂にも、ご本尊の達磨像を奉安しています。ともに、開運にご利益があるとかで、各地に達磨寺があり、『だるま市』が盛大に開かれています。

小生も達磨さんのご利益を頂こうと、昨春から宝くじを買っては、本尊真前に備え祈願していますが今のところ、ご利益は頂いておりません。

1等前後賞で7億円、当たれば盲導犬育成に何割か寄付しよう、テレビで見たどこかの寺のように、大きな観音像を建てよう・・・夢は果てし無く拡がります。「買わぬと当たらぬ宝くじ」とは、宣伝文句ですが、「買ってても当たらぬ宝くじ」に変えたほうがいいのではないかと思います。

所詮「宝くじ抽選までの夢を買う」なのかもしれません。今回の宝くじは、某檀家さんの、蛇石を祀っている祠（ほこら）にお参りし祈願をしようかと真剣に？考えています。



編集後記

▼シニア世代の還暦同窓会が流行っています。小生も数年前に、小学校と中学校のそれに出

奉納便り

○金式萬円御寄進（平成廿六年十二月十四日）
久恒月枝様より墓地北塀新築工事の足しにと喜捨されました。有り難くお礼申し上げます。

席しました。

▼「還暦や もういくつ寝ると お葬式」（ひろさちあ）という川柳を見つけました。残り少ない人生だからこそ過ぎ去りし思い出に浸りたいのでしょうか。

▼「方丈記」の作者、鴨長明は都の郊外に、一畳四方の「方丈の庵」を結び隠棲し、世の無常を綴りました。

▼「立って半畳、寝て一畳」所詮栄華を誇っても、人が必要な最低の広ささえあれば事足りるのです。

▼この庵さえ飯の庵とよんだ長明の終つひの棲家すまみか

は西方極楽浄土であり、現世は飯の暮らしにすぎないのです。

▼「年金や 葬式までの つなぎ金」六十五歳まであと二年。往生の準備をしなければなりません。年々少なくなる年金でも、受け取ってから往生したいものですネ！
(住職記す)

▽新年おめでとうございます。今年で禅堂（修行道場）より九島院に戻ってから十年が経過します。▽節目の年でもあります。しっかりと初心を忘れず、仏道に精進致す所存でございます。
(副住職記す)

九島院のフェイスブックページを作りました！検索してみてください！

山門会 (春彼岸法要)

3月23日(月)

午後 1時半 より

※ご先祖供養です。宗旨に関係ありません※
ご回向お申込み下さい。

清興：ハンマードルマー演奏『稲岡大介』

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。